

## 田（た）のクロ回れ

「田のクロ回れ」若い時に先輩教員によく言われた言葉です。クロとはあぜ道の事で、「稲を育てるためには、田んぼの中を歩かず、あぜ道を通ることが大切だ」の意味で、「生徒を育てるには、迂遠（うえん：遠回り）と思えるやりかたも大切だ。」と私なりに解釈していました。

当時の連絡手段は、家庭訪問と電話、置手紙や連絡帳などが基本でしたが、先輩方には「電話で済ませず、家庭訪問しておうちの方とひざを交えて話せ」「自分の土俵ではなく、おうちの方の土俵に入って話せ」と多々指導を受けました。家庭訪問を繰り返すことで、話の内容も学校からのお願いではなく、おうちの人によりそうようになり、お互いの悩みや困りごとでも話せるようになりました。

しかし、生活様式が変わったのかもしれませんが、最近では家庭訪問を拒まれるケースが多くなり、電話訪問やメール（SNS）訪問が増えているような気がします。

「稲（いね）は畔（あぜ）の足音を聞いて育つ」稲作は田んぼのあぜみちを歩いて手間、暇掛けて育てれば、良く育つとも言われています。コロナ禍でおうちの方と対面する機会が減る中、先輩から教わった「子どもを育てるために、先生方に田のクロをどう回ってもらえるのか？」働き方改革を進めながら、不易なものを大切にしつつ、様々な最先端技術も活用する・・・校長としてやるべきことは多いようです。